

# 呼吸器系疾患が多数

レイテ島  
地滑り災害

## AMDAが帰国報告

フィリピン・レイテ島 支援をしていた国際医療  
の地滑り災害で緊急医療「NGO「AMDA」」(本



アナハワン郡病院で被災者を診察  
する医師ら(2月22日、フィリ  
ン・レイテ島で(AMDA提供))

部・岡山市)が2日、帰  
国報告会見を開いた。

AMDAは、地滑り発  
生の翌2月18日に第1陣  
の調整員を派遣。21日か  
ら27日まで、日本人医  
師、看護師、AMDAイ  
ンドネシア支部医師らに  
よる医療支援を行った。

災害現場から約9<sup>キロ</sup>離  
れた避難所などで診察し  
た数谷亨医師らによる  
と、今回の地滑りでは、  
死者・行方不明者は多数  
出たが、生存者にけが人  
は少なかった。7日間で  
315人を診た結果、狭  
い空間に大勢が暮らす避  
難生活の影響か、風邪な  
どの呼吸器系疾患や不眠  
を訴える人が多かったと

いう。「精神的なショッ  
クの影響は、今後出てく  
るのではないか」という。  
菅波茂AMDA代表に  
よると、同国では外国人  
の医療行為は禁じられて  
いるが、地元医師会の全  
面的な受け入れのおかげ

で医療支援が可能になっ  
たという。日本からの直  
接支援はひとまず終了す  
るが、物資調達などで協  
力を得た金光教平和活動  
センターのマニラ事務所  
スタッフらを通じた情報  
収集は続けるという。